

Regional Innovation Research Center

Graduate School of Economics and Management
Tohoku University
2010

東北大学大学院経済学研究科 地域イノベーション研究センター



TOHOKU
UNIVERSITY

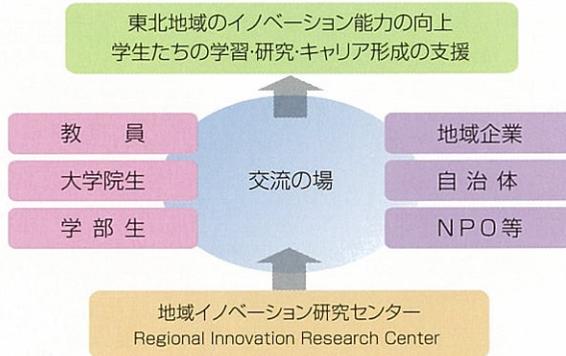


センター概要 設立目的・事業・運営体制

設立目的

地域イノベーション研究センター（以下、センター）は、経済学研究科内外の知的能力を組織的に結集して教育研究活動を行うことによって、東北地域のイノベーション能力の向上を図り、東北地域の産業振興と経済発展に貢献するために必要な諸事業の企画、実施および調整を行うことを目的とします。

また、センターは本学および地域の学生たちに地域の企業、自治体、NPO等の実務家たちと交流する場を提供することによって、東北地域の現実について強い関心と理解をもち地域発展への貢献意欲と能力をもつ人材を育成します。

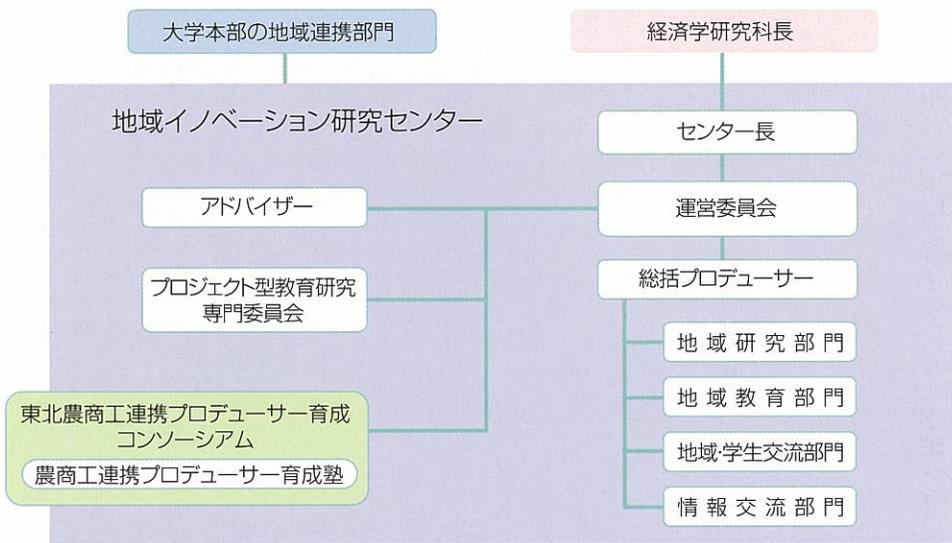


事業内容

センターは以下のような基本事業を実施します。

- ▶ 地域イノベーションに関する研究の推進
- ▶ 地域イノベーションに関する教育の推進
- ▶ 地域イノベーションを牽引する指導者の人材（地域プロデューサー）の育成
- ▶ 地域イノベーションに関する情報交流の推進
- ▶ 委託研究、寄附講座、共同研究の受入

運営体制



東北地域の地域力の向上をプロデュースする



センター長

大滝 精一 経済学研究科教授

急激な人口減少のもとで、いかに東北地域の活力を向上させ、持続可能な成長を図っていくのかが大きな課題となっております。地域イノベーション研究センターの使命は、こうした東北地域の課題に応え、イノベーションの実現を通して地域力の持続的向上を推進していくことにあります。地域イノベーションは大学だけの力では実現できません。東北地域に関わりをもつ企業、政府、自治体、非営利組織、それに他の大学や研究教育機関が、地域イノベーションの実現に向けて共通の目的を設定し、互いの個性を生かしつつ協力し合うことが不可欠です。当センターは、これまでの成果と経験を基盤として、東北地域活性化のプロデューサーとしての役割を果たしていきたいと考えております。

地域研究プログラム シンポジウム等の開催、地域企業調査

シンポジウム・フォーラムの開催

地域の中小企業経営および経済・産業に関するシンポジウムとフォーラムを開催することによって、地域の重要課題を焦点化し、課題解決に向けての議論と学習の場を提供しています。2008年度からは「農商工連携プロデューサー育成事業」を推進するためのセミナーを開催しています。

- センター設立記念国際シンポジウム
東北アジアの産業クラスター
2005.09 仙台国際センター
- 第1回フォーラム
若者に選ばれる地域企業の条件：地域企業の人材獲得と育成
2006.03 ホテル仙台プラザ
- 第2回フォーラム
中小企業のイノベーションを起こす情報化への新たな挑戦
2006.11 仙台市戦災復興記念館
- 第2回シンポジウム
東北地域の経済産業の問題点を探る
2007.09 仙台国際センター
- 第3回シンポジウム
地域ブランドの作り方
2008.03 仙台国際センター
- 地域イノベーション・シンポジウム
ものづくりだけで生き残れるか？ー製造業のサービス化ー
2008.10 仙台国際センター
- 第1回 農商工連携をリードする経営人財育成セミナー
地域企業・事業者が飛躍するために経営者は何をすべきか
2009.01 せんだいメディアテーク
- 第2回 農商工連携をリードする経営人財育成セミナー
自社と地域の利益モデルを構築する経営者をいかに育成するか
2009.03 せんだいメディアテーク
- 東北大学経済学部創設60周年記念シンポジウム
デザイン発想からの新しい経営
2010.02 東北大学百周年記念会館（川内萩ホール）
- 農商工連携フォーラム
持続的な農商工連携のために
2010.03 せんだいメディアテーク



地域中小企業景況調査

宮城県中小企業家同友会が会員企業を対象に行うアンケート調査に協力しています。年2回、会員企業の現在の経営状況および3ヶ月後の経営状況の予測について調査を行い、報告書を作成します。また、毎回の調査では、時期に合う特別テーマが設定され、地域中小企業の取り組みの現状と課題についても調査が行われます。

経営者として向上させたい能力（複数回答）



これまでの特別テーマ

- 2005 年上半期 会社の経営で問題となっていること
- 2005 年下半年 会社の経営上の主要な取り組みの状況
- 2006 年上半期 経営者として向上させたい能力
- 2006 年下半年 障害者雇用
- 2007 年上半期 後継者問題
- 2007 年下半年 経営指針の作成および運営
- 2008 年上半期 原油・石油製品価格上昇の影響
- 2008 年下半年 昨今の経済情勢の自社への影響
- 2009 年上半期 今後の景気回復の見通し
- 2009 年下半年 自社の雇用情勢

地域研究プログラム プロジェクト型教育研究

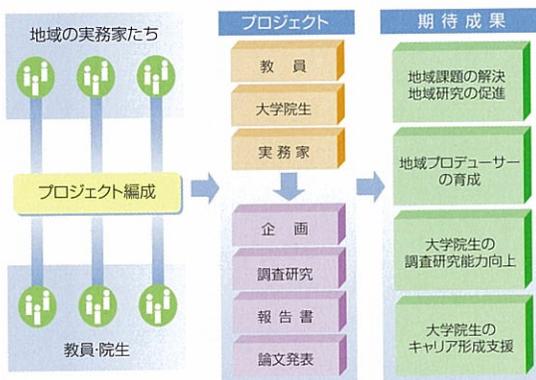
プログラムの概要

プロジェクト型教育研究プログラムは、地域研究部門の重要事業として地域課題に関する研究を促進し、それを通じて特定の地域課題の解決に貢献することを目的として実施されます。そのために、特定の地域課題を中心にしたプロジェクトが編成され、本研究科の教員（プロジェクト・リーダー）と大学院生および地域の実務家たちが共同で調査研究を行い、課題解決に取り組みます。

また、大学院生たちにプロジェクト経験、実務家たちとの交流および調査研究の機会を提供することによって研究者としての能力向上とキャリア形成を支援します。

2010年度からは、地域社会の実務家たちとの交流と連携をより積極的に行い、より適切な課題の選定および課題解決に向けて行動指向性を強化することによって、本プログラムの効果を高めていきます。

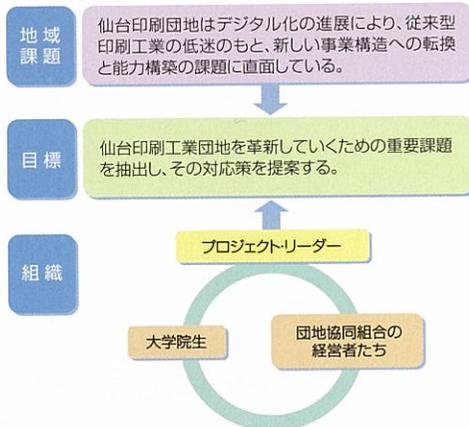
プロジェクト型教育研究プログラムの概要



これまでの実施プロジェクト

- 仙台印刷工業団地クラスター革新プロジェクト (2006～2008年度)
プロジェクト・リーダー：大滝精一教授
- 地域経営人材育成プロジェクト (2006～2008年度)
プロジェクト・リーダー：藤本雅彦教授
- NPO人材マネジメント・プロジェクト (2007～2009年度)
プロジェクト・リーダー：西出優子准教授、高浦康有准教授
- 宮城県食品産業振興プロジェクト (2008～2009年度)
プロジェクト・リーダー：澁谷寛教授
- 若手人材育成プロジェクト (2009年度)
プロジェクト・リーダー：藤本雅彦教授

仙台印刷工業団地クラスター革新プロジェクトの概要



NPO人材マネジメント・プロジェクトによる現地調査



仙台市のクリエイティブ・クラスター構想と共同で事例調査報告会を開催 (2008.8 せんだいメディアテーク)

地域教育プログラム 公開講座

公開講座「イノベーション・カレッジ」

財団法人東北産業活性化センターと連携して、経済学研究科の教員が東北地域の7県を巡回しながら、中小企業経営および地域活性化に関する無料公開講座を提供する「イノベーション・カレッジ」を開催しています。



連携講座

「東北地域の中小企業経営と地域活性化」

独立行政法人中小企業基盤整備機構東北支部と連携して、学部学生と中小企業関係者などの一般市民を対象に公開講座を開催しました。東北地域の優良中小企業の経営者、東北経済産業局、自治体等の実務担当者が講師となって、現場感あふれる事例を紹介しながら、中小企業経営の特徴・課題・ダイナミズムについて講義しました。中小企業支援施策、産学官連携および地域活性化の現状と重要課題に対する関心と理解を高め、地域発展への貢献意欲をもつ人材の育成を図りました。(2008年度と2009年度に実施)

みやぎ県民大学開放講座

宮城県の委託事業として、地域中小企業のイノベーション能力の向上を図るための開放講座を開講し、多くの受講者から高い評価を受けました。

2006年度 地域企業イノベーションの切り口 (70名受講)
2007年度 地域企業の飛躍を考える 40の質問 (118名受講)

2008年度開催実績

宮城県 2008.9.6～9.7
仙台国際センター、127名受講
青森県 2008.9.20～9.21
青森県観光物産館アスパム、72名受講
山形県 2008.9.27～9.28
山形ビッグウィング、79名受講

2009年度開催実績

福島県 2009.9.5
コラッセふくしま、52名受講
宮城県 2009.9.12
仙台国際センター、134名受講
秋田県 2009.9.19
秋田県総合保健センター、35名受講

2009年度の講義内容および講師

- 次世代経営人材の育成 (藤本雅彦教授)
- 視点転換と企業戦略 (福嶋路准教授)
- 卓越な収益性のビジネス・デザイン (権奇哲教授)
- 経営倫理と製造者責任 (高浦康有准教授)
- ビジネスモデルのイノベーション (大滝精一教授)
- 企業ホームページの役割を再考する (澁谷寛教授)

2010年度の開催日程と会場

岩手県 2010.9.4
いわて県民情報交流センター「アイーナ」
新潟県 2010.9.11 朱鷺メッセ
宮城県 2010.10.2 仙台国際センター

2010年度の講義内容および講師 (予定)

- 地域企業のイノベーションの考え方 (大滝精一教授)
- 地域企業のイノベーションの事例紹介 (福嶋路准教授)
- 地域企業の人材育成 (藤本雅彦教授)



連携講座：東北経済産業局長による東北経済の現状と課題についての講義

地域・学生交流プログラム プロデューサー塾

概要

地域社会の各分野でイノベーション活動に取り組んでいる優れた地域プロデューサーの方を囲んで、問題意識、課題への取り組み、考え方や生き方について学生たちとざっくばらんに語り合う場です。経済学部の学生たちの企画と運営によって実施されています。

※ 2007年度までは「イブニング・トーク」として開催されました。

2005年度 イブニング・トーク

- 第1回 人間力 (三條毅氏)
- 第2回 仙台を学生の多いまちから学生のまちへ (渡辺一馬氏)
- 第3回 存在証明と所属証明 (山崎賢治氏)

2006年度 イブニング・トーク

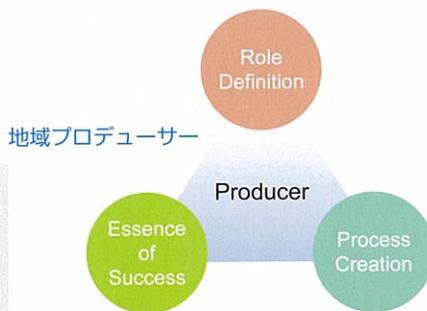
- 第4回 東北におけるベンチャー企業育成の必要性 (熊谷巧氏)
- 第5回 私が大企業を見限ったわけ (小泉光氏)
- 第6回 ライフスタイルをプロデュース (一ノ宮嘉道氏)
- 第7回 六本木ヒルズを捨てた男 (小泉彌和氏)
- 第8回 田中康夫とガチンコ勝負をした男の今 (佐藤崇弘氏)
- 第9回 食材王国みやぎ・よもやま話 (三輪宏子氏)

2007年度 イブニング・トーク

- 第10回 生きているってなんだ。学校出たら何が生きがいた (高橋四郎氏)
- 第11回 スローフード運動の展開 (若生裕俊氏)
- 第12回 広報の仕事 マーケティングから危機管理まで (萩原誠氏)
- 第13回 起業して、よかったこと (五十嵐実氏)
- 第14回 おらほのプロジェクトX (岸田勝人氏)
- 第15回 農村における社会起業家 (加藤孝志・重子氏)

2008年度 プロデューサー塾

- 第1回 好きな道で志を極め、社会を豊かにする生き方 (石井力重氏)
- 第2回 はじまりは、JAZZ。(佐々木和夫氏)
- 第3回 I am マチヅクラ (足立千佳子氏)
- 第4回 T.E.A.M. ～チームワークの真の意味～ (マーティ・キーナート氏)
- 第5回 ベガルタ仙台的な地域戦略 (安孫子博氏)
- 第6回 インターネットを活用したエリアコミュニティの形成について (後藤匡氏)



地域プロデューサー

地域の新しい共生関係を構想・提案し、その実現を自分の役割として定義し、目的達成のための成功の本質を把握し、強い意志をもってその目的を達成するまでのプロセスを創造していく者またはその役割



2009年度開催のプロデューサー塾

第7回

- 光のページェント・仕掛人～定禅寺通りからの街おこし～
- 米竹隆氏 (定禅寺通り街づくり協議会常任幹事兼事務局局長)



第12回

- 環境問題に関わるということ～企業人から環境 NGO へ～
- 小林幸司氏 ((財)みやぎ・環境とくらしネットワーク (MELON) 事務局統括)



第8回

- キャリア@NPO: NPO人材マネジメント・プロジェクト報告会
- 加藤哲夫氏 (せんだい・みやぎNPOセンター 代表理事) ほか



プロデューサー塾



第11回

- 一ノ蔵型 6次産業の実現に向けて
- 浅見紀夫氏 ((株)一ノ蔵代表取締役 役名誉会長)

第9回

- 建築×仙台
- 五十嵐太郎氏 (東北大学大学院工学研究科准教授)
- 伊藤寿幸氏 (せんだいデザインリーグ実行委員長、東北工大学生)



第10回

- もじゃもじゃ監督がやって来る
- 平林克理氏 (映画監督)



地域・学生交流プログラム インターンシップ、その他

インターンシップ・プログラム

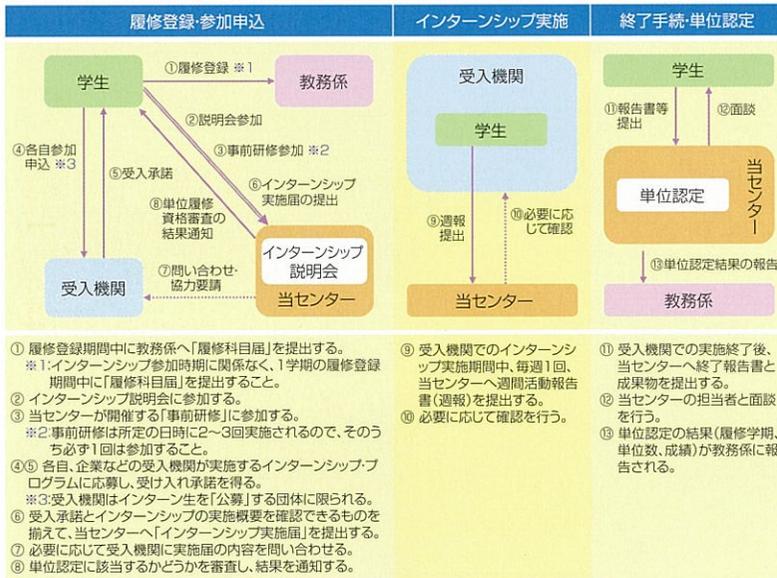
インターンシップ・プログラムは、在学中に企業、公的機関、NPOなどの実社会で就業体験をする機会を提供することによって、学習方法の多様化を図り、学生たちの能力向上とキャリア形成を支援することを目的とします。学部生および大学院生は所定の手続きを行ってインターンシップに参加することによって単位を履修することができます。

学生区分	科目名	単位数
学部2～4年生	インターンシップ	2～4単位
大学院生（前期課程）	経済実習Ⅰ	
大学院生（後期課程）	経済実習Ⅱ	



インターンシップ事前研修の様子

インターンシップ（経済実習）の実施プロセス



インターンシップ事前研修

学生たちが実社会での就業体験をより円滑かつ成果豊かなものにするように、専門家による事前研修を実施しています。

●オリエンテーション

インターンシップの目的と意義を理解し、成果を上げるための重要事項を学習する。

●基本マナーとコミュニケーション

職場での基本マナーをロールプレイング（役割実習）によって習得し、コミュニケーションを円滑に行うための重要事項を学習する。

●課題解決と仕事の進め方

コンセンサス・ゲームや課題解決ゲームなどの実習プログラムを通して、基本的な仕事の進め方（Plan Do Check Action）を習得する。

地域の経営者との交流・創業支援セミナー

地域で成長しているベンチャー企業や優れた成果を上げている中小企業の経営者と学生たちとの交流の場を設けます。経営者による講演、学生たちと経営者との交流を通じて、地域企業の可能性と課題を認識してもらったり、学生たちの起業意欲の高揚を図っています。

仙台市政策研究員

2009年度の特別事業として、仙台市と連携して、仙台市の総合計画策定を前に、東北大学の学生を政策研究員として委嘱し、若者の視点からの政策提言を行いました。東北大学の学生11名（学部生6名、大学院生5名）は、それぞれのテーマを決め、調査研究活動を行い、その成果を2010年3月に開催された最終報告会で仙台市長に提言しました。



政策研究員委嘱状交付式 2009.8

特別プログラム 農商工連携プロデューサー育成事業

概要

本事業は、農商工連携によって新しいビジネスモデルや商品・サービスの創出をリードする農商工連携プロデューサーの育成を目的とするものです。2008年10月に「東北農商工連携プロデューサー育成コンソーシアム」が設立され、農商工連携プロデューサーを育成するための教材開発、事例作成などを行いました。2009年度にはすぐれた農商工連携プロデューサーを育成するために「農商工連携プロデューサー育成塾」を開講し、公募で選抜された第1期生24名に対する教育活動を行って、22名の農商工連携プロデューサーを輩出しました。そして、農商工連携セミナーおよび農商工連携研究会などを開催しました。

2010年度には、第2期の育成塾を開講し、また農商工連携による新事業立ち上げを支援するための仕組みである「農商工連携プラットフォーム」の設立を予定しています。



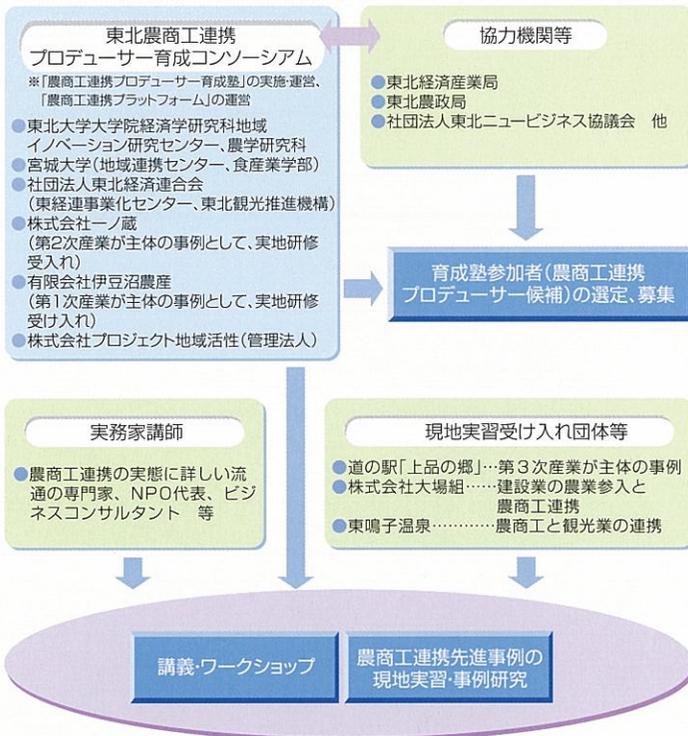
大滝精一教授

コンソーシアム事業運営委員会委員長
(地域イノベーション研究センター長)



育成塾におけるワークショップの様子

農商工連携プロデューサー育成塾の実施体制



育成塾における現地実習の様子



育成塾を修了した第1期生と関係者

さらなる飛躍に向けての中期的課題

センターの中期的課題

2010年度から始まる東北大学および経済学研究科の第2期中期目標・計画の中で、センターは2つの重点的に推進すべき課題を設定し、それぞれの年次計画を提示しました。センターは、2010年度から運営委員会のもとで実施体制を整備し、これらの課題を高い水準で達成していくための基本構想と行動計画づくりに取り組みます。

【重点課題Ⅰ】

東北大学産学連携推進本部と提携して、地域イノベーション研究センターを地域産学連携の拠点として位置付け、地域のイノベーション創出に向けた社会との連携や貢献を強化する。

2010年度

本学の地域連携総括および地域の諸機関と連携して、地域イノベーション研究センターを中心にした本学の地域産学官連携体制を構築するための枠組みを開発する。併せて、地域イノベーション研究センターの片平への移転・拡充を推進する。

2011年度

地域イノベーション研究センター内にイノベーション創出支援部（仮称）を創設し、地域産学官連携による推進事業および具体的な支援プログラムを開発する。

2012年度

本学の諸部局および地域と連携して、本学の優れた研究教育資源および技術シーズを活用する変革力の大きい地域イノベーション創出プロジェクトを選定し、その行動計画と実施体制を整備する。

2013年度

地域イノベーション創出プロジェクトを実施する。

【重点課題Ⅱ】

地域イノベーション研究センター・エクステンション・スクールを開設する。

2010年度

地域イノベーションを担う優れた地域人材を育成するための「エクステンション・スクール」の基本コンセプトを設定し、教育コンテンツの開発に取り組む。

2011年度

教育コンテンツの開発を継続するとともに、一部のコース・プログラムを試行的に実施し、その妥当性を検証する。

2012年度

複数のコース・プログラムを完成させるとともに、エクステンション・スクールの開設に向けて運営体制を整備し、広報活動を行う。

2013年度

エクステンション・スクールを開設し、地域イノベーションを牽引する指導的人材の育成に取り組む。

情報交流プログラム

ホームページによる交流

センターのホームページを通じて、センターの概要、事業内容、インターンシップ案内などの情報を提供するとともに、センター活動に関するニュース、各種募集の案内などを行います。また、センターのパンフレットや各年度のセンター活動報告書などの資料をダウンロードすることができます。

コラム「私の一冊」

情報交流事業の一環として、コラム「私の一冊」を提供しています。このコラムでは、経済学研究科の研究者等が、自身の研究成果（著書・論文）や、座右の書または強く感銘を受けた本などを紹介します。コラムを通して、皆様が大学の知や経済学・経営学に対する幅広い興味関心を持ち、イノベーションを生み出すきっかけとされることを期待しています。



2009年度のコラム内容

- 費用便益分析の創始者はローマ人？（森杉壽芳 経済学研究科特任教授）
- 「政府の無駄遣い」を喧伝することで得をするのは誰か？（堀井亮 経済学研究科准教授）
- 広告はやせぬかれないのか&アンケート調査で何かわかるのか（益谷寛 経済学研究科教授）
- 不況期に静かに台頭する新たな「優良企業」（大滝精一 経済学研究科教授、地域イノベーション研究センター長）
- 童話に学ぶ経営学（高浦康有 経済学研究科准教授）
- 歪められた会計数値（櫻本正博 経済学研究科准教授）
- 「会計とは何か」を考える有力な一つの手がかり（藤井建人 経済学研究科教授）
- 経済学部が数学を学ぶには（室井芳史 経済学研究科准教授）
- コークの味は国ごとに違うべきか（菅原歩 経済学研究科准教授）
- 足を使って「地域を見つめること」（石垣政裕 経済学研究科講師）

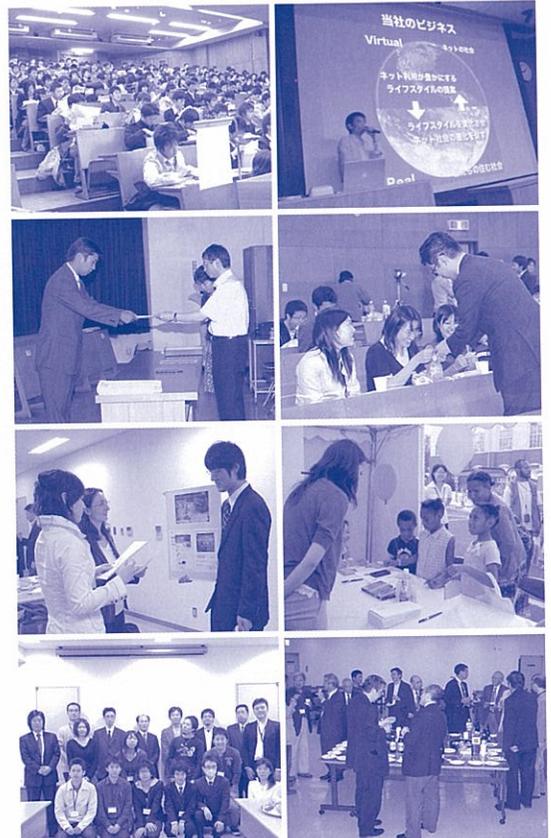
学会発表・広報イベント等への出展

センターは本学および地域社会で開催される各種イベントに積極的に出展し、センターの目的と事業活動を広く知らせることによって、地域社会とのネットワーク形成と連携活動の拡大に努めています。

- 本学100周年記念まつり期間中(2007年8月25日～26日)に、センターの事業活動を紹介するパネルを展示し、多くの同窓生、一般市民との交流を行いました。
- 2007年10月5日に開催された本学のイノベーションフェアに出展し、「ようこそ！地域イノベーション研究センターへ」というコーナーを設置し、研究・教育・人材育成・情報交流などの事業活動を紹介しました。
- 日本高等教育学会第11回大会(2008.5.24、東北大学)で「大学の三つの使命を追求する地域との有機的連携：東北大学経済学研究科地域イノベーション研究センターの事例より」を発表しました。
- 韓国の国立昌原大学で開催された国際学術セミナー(2008.11)、朝鮮大学の東アジア経済研究所(2008.11)、金堤市の市民講座「地平線アカデミー」(2008.11)、韓国産業技術財団技術政策研究センターの特別セミナー(2008.9)等で、事業活動について紹介しました。
- 「東北大学 Annual Review 2008」に、教員・大学院生・地域の実務家が共同で地域の重要課題の解決に取り組む「プロジェクト型教育研究プログラム」による社会貢献活動が掲載されました。

連携事業・委託事業・寄附金等の受入

センターは、地域イノベーション能力の向上というセンターの設立目的に合致するような連携事業、委託事業、寄附金等の受入に関する相談を受け付けます。相談をご希望の方は、センターまでお問い合わせください。



センター略史

2005.7	地域イノベーション研究センター（RIRC）設立	2008.5	第1回プロデューサー塾の開催
7	ベンチャー創業セミナーの開催	5	とうほく学生フォーラム2008 ～地域を変える若者の力～の開催
9	第1回宮城県中小企業家同友会アンケート調査	6	第2回プロデューサー塾の開催
9	設立記念国際シンポジウム「東北アジアの産業クラスター」の開催	7	第3回プロデューサー塾の開催
10	創業支援セミナーの開催	7	中小企業政策特別セミナー「大学発ベンチャー：韓・日比較研究」の開催
11-12	第1期起業家育成（インターンシップ）プログラムの実施	7	第7回宮城県中小企業家同友会アンケート調査
11	『東北21』（東北経済産業局）への記事掲載	8-10	第5期プロジェクト型長期インターンシップの実施
11	第1回イブニング・トークの開催	9	イノベーション・カレッジ2008の開催
12	第2回イブニング・トークの開催	10	地域イノベーション・シンポジウム「ものづくりだけで生き残れるか？～製造業のサービス化」の開催
2006.1	第3回イブニング・トークの開催	10	連携講座「東北地域の中小企業経営と地域活性化」の開講（～2009.1）
2	フォーラム「どうなる介護保険？」「どうする市町村・介護保険事業所の経営！」の開催	10	第4回プロデューサー塾の開催
3	第2回宮城県中小企業家同友会アンケート調査	10	特別セミナー「地域革新システム構築のための産学協力活性化方案」の開催
3	第1回RIRCフォーラム「若者に選ばれる地域企業の条件」の開催	10	東北農商工連携プロデューサー育成コンソーシアムへの参加
2006.4	プロジェクト型長期インターンシップの単位履修化	11	第5回プロデューサー塾の開催
4	自主持ち込み型インターンシップの開始	2009.1	第6回プロデューサー塾の開催
4	ベンチャー EXPO2006の開催	1	第8回宮城県中小企業家同友会アンケート調査
5	第4回イブニング・トークの開催	1	第1回「農商工連携をリードする経営人財育成セミナー」の開催
6	第5回イブニング・トークの開催	3	第2回「農商工連携をリードする経営人財育成セミナー」の開催
6-8	第2期プロジェクト型長期インターンシップの実施	3	経和会会報に地域イノベーション研究センター特集を掲載
6	第6回イブニング・トークの開催	2009.5	第1回インターンシップ事前研修の実施
7	第3回宮城県中小企業家同友会アンケート調査	5	第7回プロデューサー塾の開催
9	みやぎ県民大学開放講座の開催	6	第8回プロデューサー塾の開催
9	中小企業政策（中小機構）寄附講座の設置	6	農商工連携プロデューサー育成塾の開講
10-12	第3期プロジェクト型長期インターンシップの実施	6	第2回インターンシップ事前研修の実施
11	第2回RIRCフォーラム「中小企業のイノベーションを起こす情報化への新たな挑戦」の開催	6	2009年度 東北大学経済学会講演会の共催
11	第7回イブニング・トークの開催	7	第9回プロデューサー塾の開催
11	第8回イブニング・トークの開催	7	第9回宮城県中小企業家同友会アンケート調査
2007.1	第4回宮城県中小企業家同友会アンケート調査	7	オープン・キャンパスにおけるパネル展示
1	新春（第9回）イブニング・トークの開催	8	第3回インターンシップ事前研修の実施
2	『産学官連携ジャーナル』（JST）への記事掲載	8	仙台市政策研究員事業の開始
2007.5	第10回、11回イブニング・トークの開催	9	イノベーション・カレッジ2009の開催（宮城県、福島県、秋田県）
6	第12回イブニング・トークの開催	10	連携講座「東北地域の中小企業経営と地域活性化」の開講（～2010.1）
7	第5回宮城県中小企業家同友会アンケート調査	10	テクノフェアはなまき2009「農商工連携フォーラム」の共催
8-10	第4期プロジェクト型長期インターンシップの実施	10	第10回プロデューサー塾の開催
8	東北大学100周年記念まつりへの出展	11	第11回プロデューサー塾の開催
9	みやぎ県民大学開放講座の開催	11	農商工連携プロデューサー育成塾 第1期生修了式
9	第2回RIRCシンポジウムの開催 「東北地域の経済産業の問題点を探る」	2010.1	第12回プロデューサー塾の開催
10	東北大学イノベーションフェア2007 in 仙台への出展	1	第10回宮城県中小企業家同友会アンケート調査
10	第13回イブニング・トークの開催	2	東北大学経済学部創設60周年記念シンポジウム「デザイン発想からの新しい経営」の開催
11	第14回イブニング・トークの開催	3	フォーラム「持続的な農商工連携のために」の開催
11	講演会「働き甲斐のある会社 NO.1 の社長が語る『人と組織』」を東北大学経済学会と共催	3	仙台市政策研究員最終報告会
12	第15回イブニング・トークの開催		
2008.1	『IKUEI NEWS』（(財)電通育英会）への記事掲載		
1	第6回宮城県中小企業家同友会アンケート調査		
1	「新連携」セミナーの開催		
2	センター内規の制定および運営組織の整備		
3	第3回RIRCシンポジウム「地域ブランドの作り方」の開催		

交通アクセス

▶周辺図



▶構内図



JR仙台駅より仙台市営バスにて「東北大川内キャンパス」下車(20分)
仙台駅西口バス乗り場9番「青葉通・工学部経由動物公園循環」、
「宮教大」、「成田山」、「青葉台」行きの各バス利用
JR仙台駅西口よりタクシーご利用の場合は約15分

連絡先

〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1
東北大学大学院経済学研究科
地域イノベーション研究センター
電話・FAX 022-795-3108
E-mail rirc@econ.tohoku.ac.jp
internship@econ.tohoku.ac.jp(インターンシップ専用)
Homepage <http://www.econ.tohoku.ac.jp/rirc/>

Regional Innovation Research Center
Graduate School of Economics and Management
Tohoku University

Kawauchi 27-1, Aoba-ku, Sendai